

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (国際協力学)	氏名	MRINILA SINGH
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Sustainability of Organic Farming Compared to Conventional Farming in Chitwan District of Nepal			
論文審査担当者			
主 査 広島大学大学院国際協力研究科 教授		印	
MAHARJAN, KESHAV LALL			
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科 教授	金子	慎治
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科 准教授	関	恒樹
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科 准教授	川村	健介
審査委員	放送大学教養学部 教授	河合	明宣
〔論文審査の要旨〕			
<p>ネパールにおける持続的農業発展、安全で安心できる食物の確保等において有機農業が注目されながら、住民の取り組み、政府の支援・普及体制、栽培技術、食物の価格保障、市場・流通の整備などは必ずしも充分ではない有機農業の問題に着目し、同問題の世界的動向を踏まえ、設定されている研究課題は適切である。そして、ネパールにおける有機農業の先進地帯であるタライ地方のチトワン郡における現地調査による一次資料に基づく農業経済学・地域研究の視野に立った実証分析は高く評価できる。本論文は9章から構成され、以下のようになっている。</p> <p>序 章：研究の背景、課題と制約 第2章：先行研究のレビュー 第3章：研究分析のフレームワーク、方法論及び調査地の位置づけ 第4章：有機農法と従来農法の決定要因に関する分析 第5章：食物多様性の現状及びその決定要因に関する分析 第6章：有機栽培における作付け・肥培管理に関する分析 第7章：農業総収益及び農業現金粗収入に関する分析 第8章：ニンジン栽培における生産高及び純収益に関する分析 終 章：結論</p> <p>近年ネパールにおける有機農業の動向を把握し、1) 多項ロジットモデル分析により有機栽培の推進における社会経済的要因を明らかにしたこと、2) 有機栽培の持続性における肥培管理・土壌づくりにおいてマルチング、バイオガス堆肥、ミミズ堆肥、バイオ農薬の重要性を確認し、多変量プロビットモデル分析によりその実施において農業収入、農家の教育水準、栽培技術のトレーニング、有機栽培の経験が影響することを明らかにしたこと、3) 栽培作物の多様性をシャノン多様性指数を用いて算定し、線形回帰分析により同指数に影響を与える要因を明らかにし、作物の種及び量の多様性が生産性に貢献することを明らかにしたこと、4) 以上のことを踏まえ、農家経営分析を行い、農業総収益及び農業現金粗収入において農家規模、市場の情報、栽培作物の多様性が収入に影響を与えることを明確にしたこと、5) さらに、ニンジン栽培における費用便益分析により有機栽培における純益が少なく、その原因は高労働費用、低生産高、有機農産物市場の未整備とつきとめたこと、6) そのような問題に対応するため、農家は結集し、目的別にグループとして取り組み、戦略的食物栽培、コスト・リスク管理、独自の販売路開拓など持続性を確保すべく農民的努力について言及していること、7) 研究成果の一部は内外で査読付学術論文(8本)、また一部(9本)は国際学会などで口頭発表されていること、8) 以上の研究を踏まえ、同問題の理解を深めるため、有機農業を体系的にとらえる独自の研究説が展開していること等は評価される点として注目された。</p> <p>以上の結果、審査委員一同が本論文が博士(国際協力学)に充分値すると判断し合格と判定した。</p>			